

【ホームページ用】

平成 29 年度 全国学力・学習状況調査から見られる概況について〈江津市〉

1. 小学校について

小学校調査 6年生 市内7校 181名

小学校	調査種別	江津市	島根県	全国
国語	国語A	72	75	74.8
	国語B	55	58	57.5
算数	算数A	72	77	78.6
	算数B	40	43	45.9

【各教科調査問題】〈○：強み ▲：弱み 全国：各教科における全国平均正答率〉

国語A	・平均正答率について、全国をやや下回った。
国語B	・平均正答率について、全国をやや下回った。 ▲自分の考えを広げたり深めたりするための発言の意図を捉える問題について全国を大きく下回った。
算数A	・平均正答率について、全国を大きく下回った。 ▲加法と乗法の混合した整数と小数の計算、商を分数で表す問題について全国を大きく下回った。 ▲「量と測定」「図形」の領域を扱った問題について全国を下回った。
算数B	・平均正答率について、全国を大きく下回った。 ▲「数と計算」「量と測定」「図形」「数量関係」全領域・全問題形式について全国を大きく下回った。

【児童質問紙調査】〈○：強み ▲：弱み 全国：質問紙調査における全国平均値〉

学校	○「総合的な学習の時間」での探求活動を行っていると考えた児童が全国を上回った。 ○読書の好きな児童の割合が全国をやや上回った。 ○「めあて」「ふりかえり」がよくなされている。特に「ふり返り活動」は全国を大きく上回った。 ○「先生はよいところを認めてくれている」「先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、わかるまで教えてくれる」と思う児童の割合が全国を大きく上回った。 ▲「算数の勉強が好き」「算数の授業の内容がよくわかる」「算数の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考える」と答えた児童が全国を大きく下回った。 ▲「友達の前で自分の考えや意見を発表することが得意」「話し合い活動の中で、自分の考えを深めたり、広げたりできている」と考える児童の割合が全国を下回った。
家庭	○携帯やスマートフォンの使い方について、家の人と約束したことを守っている児童の割合が全国を大きく上回った。 ▲平日1日当たり3時間以上テレビやビデオ・DVDを見たり聞いたりする児童の割合が全国を大きく上回った。 ▲家で、学校の予習をしている児童の割合が全国を大きく下回った。 ▲家で、自分で計画を立てて勉強をしている児童の割合が全国を大きく下回った。
地域	○地域の大人に勉強やスポーツを教えてもらったり、一緒に遊んだりすることがある児童の割合が全国を大きく上回った。 ○地域の行事に参加している児童の割合が全国を大きく上回った。 ▲地域や社会をよくするために何をすべきかを考える児童は全国を大きく下回った。

2. 中学校について

中学校調査 3年生 市内4校 188名

中学校	調査種別	江津市	島根県	全国
国語	国語A	76	77	77.4
	国語B	70	72	72.2
数学	数学A	55	62	64.6
	数学B	43	46	48.1

【各教科調査問題】〈○：強み ▲：弱み 全国：各教科における全国平均正答率〉

国語A	<ul style="list-style-type: none"> ・平均正答率は、全国と比べて大きな差は見られなかった。 ○おおむね全ての領域において、全国並みの正答率であった。
国語B	<ul style="list-style-type: none"> ・平均正答率は、全国と比べてやや下回った。 ○おおむね全ての領域において、全国並みの正答率であった。 ▲表現の仕方について捉え、自分の考えを書く問題について正答率が全国を大きく下回った。
数学A	<ul style="list-style-type: none"> ・平均正答率は、全国を大きく下回った。 ▲全ての領域「数と式」「図形」「関数」「資料の活用」について全国を大きく下回った。
数学B	<ul style="list-style-type: none"> ・平均正答率は、全国を大きく下回った。 ○資料から必要な情報を適切に読み取る問題については全国と差はなかった。 ▲数学的な技能を評価する問題については全国を大きく下回った。 ▲「数と式」「関数」について大きく下回った。

【生徒質問紙調査】〈○：強み ▲：弱み 全国：質問紙調査における全国平均値〉

学校	<ul style="list-style-type: none"> ☆平日2時間以上部活動をする生徒の割合が全国を大きく上回った。 ○「総合的な学習の時間」での探求活動を行っていると考える生徒が全国を大きく上回った。 ○読書が好きな生徒の割合が全国を大きく上回った。 ○「友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞くことができる」と答えた生徒の割合が全国を大きく上回った。 ▲「数学の勉強が好き」「数学の授業の内容がよくわかる」と答える生徒の割合が全国を大きく下回った。 ▲話し合い活動に関する事項「工夫して発表する」「自分の考えを伝える」「友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意だ」と答える生徒の割合が全国を大きく下回った。 ▲「授業の最後に学習内容を振り返る活動をよく行っていた」「授業で学んだことをほかの学習や普段の生活に生かしている」と考える生徒の割合が全国を大きく下回った。 ▲「先生は授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて分かるまで教えてくれる」と思う生徒の割合が全国を大きく下回った。
家庭	<ul style="list-style-type: none"> ○平日にテレビゲームをしない、または1時間以下の生徒の割合が全国を大きく上回った。 ○家で学校の宿題をする生徒の割合が全国を大きく上回った。 ○家で学校の授業の復習をしている生徒の割合が全国を大きく上回った。 ▲平日1時間以上学習する生徒の割合は全国を大きく下回った。
地域	<ul style="list-style-type: none"> ○「地域の大人に勉強やスポーツを教えてもらったり、一緒に遊んだりすることがある」生徒の割合が全国を大きく上回った。

3. 改善策について

- ◇今年度は各学校で実践している「授業改善アクションプラン」に検証方法を加え、学力育成サイクルプランの充実を図る。具体的なプランのもと、授業改善に向けて、継続して実践に取り組んでいく。
- ◇小中国語に関して、学校図書館活用教育研修会の開催、読解力育成事業の推進等により、自分の考えをまとめる力、書く力、伝える力をさらに伸ばす。
- ◇算数・数学を重点教科の一つとして位置付け、指導主事による学校訪問を継続し、次のような視点のもと授業改善を図っていく。
 - ・授業の中で、説明する場面を設けること。
 - ・学びを日常生活と関連付けること。
 - ・数学の用語、記号の意味を確実に理解させること。
- ◇家庭学習について、時間確保と内容の充実を図るために、学校での学びと関連した課題を取り入れたり、学習プリント配信システムを活用したり、家庭学習の意義を明確に伝えたりするなど、家庭と連携した取組を一層すすめる。
- ◇他県の学力育成策を市内各小中学校と共有し、江津市独自の学習の基盤づくりを推進する。
- ◇児童生徒の地域への愛着や貢献意欲を高めるために、今後も「江津市ふるさと・キャリア教育」の推進を継続する。